横浜市立 軽井沢中学校　　令和　4　－　6　年度版　中期学校経営方針

学校教育目標	主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします。 〇様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます。 〇持続可能な社会の実現をめざし、しなやかに生きる力を育てます。

学校概要	創立　61　周年	学校長　佐藤由利	副校長　髙橋直克	2　学期制	一般学級：8　個別支援学級：1
	児童生徒数：　255　人	主な関係校：　宮谷小学校			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
・状況を理解し、判断する力 ・課題を解決する力 ・人とつながり社会を創る力

軽井沢中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
軽井沢中学校 宮谷小学校	〇他と豊かにかかわりながら、よりよく問題を解決しようとする子ども 〇自他を大切にし、しなやかに生きる子ども 〇自らの心と体の健康を保持増進しようとする子ども ・上記3点を目指した学校行事を含めた実践や生徒の感想などを含めた成果を、共有する。 ・PTAや地域を含めた、生徒の交流を図る。

中期取組目標	〇職員の組織力を高め、生徒が主体となる活動を充実させる中で、活力と魅力にあふれる学校づくりを推進します。 ・授業力の改善に努め、見通しをもって計画的に課題を解決する力を育てます。 ・個に応じた支援の充実を図り、互いを認め合える力を育てます。 ・様々な人と関わる経験の中で多様な他者の考えや立場を理解し、他と協働する力を育てます。 ・保護者や地域との連携に努め、社会の一員としてよりよく生きようとする生徒を育てます。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①授業で身につけさせたい力を明確にし、生徒たちが主体的・計画的に学習に取り組めるような授業改善に取り組む。 ②指導方法や指導体制の工夫改善を図り、それぞれの学力層に応じた指導の充実を目指す。
担当	学習指導部	
徳	道徳教育・人権教育	①学校教育全体で道徳教育・人権教育を充実させる。 ②他の人の考えや気持ちを想像したり、共感的に理解したりする力を育む。 ③「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」や人権作文の全校での取り組みを通して、身近な人権問題について考えさせる。
担当	道徳・人権	
体	健康教育	①誰もが楽しみながら運動に参加できるよう保健体育科の授業改善を図るとともに、体育的行事や集会を生徒が主体になって運営できるようにする。 ②日常生活の中で心身の健康に配慮できるよう、学校保健委員会や保健だよりなどを通して発信する。 ③保健体育科や家庭科などの授業・食育を通して、健康な体つくりを意識させる。
担当	保健安全・保健体育科	
公開	横浜の時間	①「わたしたちのK中祭作り」での縦割りの協働活動を通して、自己や他者のよさを理解し、より良いものを創り出そうとする態度を育む。 ②地域理解学習での探究的な学習において、各教科で身につけた知識を活用し、よりよく課題を解決していく力を伸ばす。
担当	特活・総合（学習指導）	
いじめへの対応		①寄り添う生徒指導体制を構築し、相談しやすい環境づくりを推進。定期的な生活アンケートにより細かな変化も見逃さないようにする。 ②風通しの良い職員体制作りや研修により、いじめに対する感度を高くする。心の教育を充実させ、いじめを許さない風土づくりに取り組む。
担当	生徒指導部	
人材育成・組織運営(働き方)		①日常的なOJTの推進により学びあう風土づくりをさらに進め、経験の浅い職員の育成を図る。 ②研修への参加や適時性のある研修資料の提供など、教職員自ら学ぶ機会を設定する。 ③校務分掌が適切に機能しているかを検証し修正しながら、組織の改編に取り組む。
担当	教育課程委員会	
地域学校協働活動		①地域活動を推進して、地域の一員である自覚を深めさせる。 ②防災設備実施体験活動などの実施を通して地域とのつながりを深め、地域社会に貢献する姿勢を養う。 ③地域ボランティアの伝達、学校ホームページの適宜更新をし、情報の発信に努める。
担当	教務係	
特別支援教育		①特別支援委員会の定期開催により、支援を要する生徒についての情報共有を密にし、職員全体が共通認識をもって適切に支援にあたることのできる体制づくりを目指す。②特別支援教室のより良い運営方法や特別支援教育について研修を計画し、職員全員の理解を深めていく。
担当	特別支援委員会	
生徒指導		①教育相談日を設け、日頃からの声かけを行い担任だけではなくどの教員にも相談できる環境づくりを行う。 ②生徒指導研修会を実施し、職員全体での共有を行う。 ③YPアセスメントを活用して支援を検討し、組織的な対応を行う。
担当	生徒指導部	
ESDの推進		①教科の学習内容や横浜の時間・特別活動等での取り組みとSDGs17の目標とのつながりを示し、学ぶことの意味を考える機会の充実を図る。 ②身近なところから17の目標につながる行動がとれるようにする。
担当	教育課程委員会	